

今週（2月13日から2月16日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、積み期間の終盤となったが、依然としてマクロ加算残高枠に余裕のある先からの調達が多く見られた結果、13日(火)から15日(木)までの加重平均レートは、▲0.005%で高止まりして推移した。加重平均レートが▲0.005%まで上昇したのは、昨年4月7日(金)以来となり、過熱感の強い地合いが継続された。2月積み期間の初日となった16日(金)は、1月積み期間の影響もあってか、初日としては高めの水準での取引が中心となった。

ターム物に関しては、ショートタームを中心に▲0.01～▲0.001%での出会いが散見された。新しい積み期間に入る直前のタイミングでは、レートが低下する傾向にあったが、O/N物と同様に高めに推移する展開となった。

日銀当座預金残高は、国債買現先オペによる増減や年金定時払いによる増加などを主因に、532～541兆円程度のレンジで推移した。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、概ね▲0.085～▲0.02%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、横ばい圏で推移した。

13日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、弱めの結果となった。

16日に実施された3M物入札は、強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調な推移となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、建設業、小売業、石油、電気機器など複数の業態が大型発行を実施した。

市場残高は、週を通して概ね27兆円台前半と引き続き高水準で推移した。

発行レートについては、日銀適格担保銘柄の期内物の案件については、0%から浅いプラス圏での出会いが中心となった一方で、発行期間が長めの案件では政策変更への警戒感からか、レート水準にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（％）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・％）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・％)	日銀当座預金残高 （億円）
2/12（月）						
2/13（火）	37,963.97	0.725	149.35	△ 0.005	△ 0.062	5,348,700
2/14（水）	37,703.32	0.755	150.63	△ 0.005	△ 0.062	5,324,000
2/15（木）	38,157.94	0.725	150.36	△ 0.005	△ 0.083	5,409,900
2/16（金）	38,487.24	0.725	150.15	△ 0.006	△ 0.080	5,367,200

来週（2月19日から2月22日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/19 (月)	12月の機械受注統計(内閣府 8:50)	TB1Y 35,000億円 2/20発行			New York祝日 (Presidents' Day)
2/20 (火)		20Y 10,000億円 2/21発行	交付税借入 12,500億円 2/29借入		
2/21 (水)	月例経済報告(内閣府) 1月の貿易統計(財務省 8:50)				
2/22 (木)		TB3M 58,000億円 2/26発行	流動性供給 5,000億円 2/26発行		1月の米中古住宅販売 1月のユーロ圏消費者物価指数改定値
2/23 (金)	天皇誕生日				

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/19 (月)	400	▲ 5,200	▲ 4,800	国債補完	38,000		38,000	33,200	TB3M発行▲58,000 償還56,000 流動性供給▲5,000
2/20 (火)	▲ 500	▲ 1,000	▲ 1,500				0	▲ 1,500	TB1Y発行▲35,000 償還33,400 エネルギー対策借入▲6,500 期日6,400
2/21 (水)	▲ 500	▲ 17,000	▲ 17,500	社債買入 全店共通	▲ 7,500	1,000	▲ 6,500	▲ 24,000	20Y発行▲12,000
2/22 (木)	▲ 500	13,000	12,500				0	12,500	
2/23 (金)	天皇誕生日								
週 間 合 計	▲ 1,100	▲ 10,200	▲ 11,300	—	30,500	1,000	31,500	20,200	

2/19は日銀予想、2/20以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、積み期序盤であることからビッドサイドの調達余力は相応にあると思われる、レートは高水準で推移する事が予想される。債券レボ GC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で推移する事が予想される。短国市場は、19日(月)に1Y物、22日(木)に3M物の入札実施が予定されている。また、21日(水)に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、特段大きなイベントが無いなか、月末に向けて発行残高がどの程度膨らむかが注目される。

主要なイベントは、国内では19日(月)に12月の機械受注統計、21日(水)に1月の貿易統計、2月の月例経済報告、海外では、22日(木)に1月の米中古住宅販売、1月のユーロ圏消費者物価指数改定値などの発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入